

Y23a

環境整備、作品制作による衛星データの他分野利用：「花山天文台 Gallery-week」および「Birdview」による実践的アプローチ

玉澤春史、樋本隆太、磯部洋明（京都大学）

単純な科学知識の伝達だけでなく、研究で得られたデータや実験・観測施設などの研究資源を他分野で利用するための方策も科学コミュニケーションやアウトリーチに含まれつつある。天文・地球観測などの衛星データは専門家以外は扱いにくい一方、単純に認知度を上げるためだけではなく利用者を拡大する観点からも整備が必要である。京都大学の附属天文台や宇宙ユニットでは、花山天文台の天文ドームなど観測施設を作品展示の場として提供する「花山天文台 Galleryweek」を開催した。京都地元の作家を中心に「衛星データを使用した作品」というテーマで募集し、天文台で展示することを前提とした作品制作を依頼した。また、実利用に重点を置いた取り組みとして、公開されている地球観測衛星画像を携帯端末に表示させるアプリ「Birdview」を開発し、専用の解析ソフトがなくとも閲覧できる環境を整えた。いずれも非専門家をターゲットにしたものであり、これらの開催および準備作業により、当該分野のニーズの有無、必要な整備状況などを探る狙いがある。現段階で、異分野のデータを使うことによる使用前の不安、それに対する提供側の事例提供の必要性、データの重要性の明示的な表示など、研究者をはじめとした当該分野の関係者では見落としがちな要望が指摘されている。本公演ではその報告を行う。